

国際競争力強化技術開発プロジェクト 省力樹形に適した果樹品種・系統の選定と最適な栽培管理方法の開発 【研究概要図】

1. 研究目的

カンキツ、リンゴ、ナシ、カキについて、省力樹形の普及を加速化し労働生産性を向上させることで、国産果実供給量の確保と輸出の拡大を目指す

2. 研究背景

- ・労働生産性の高い省力樹形が、それぞれの樹種で提案されている。
- ・限られた品種でしか栽培試験が行われていない。主要な栽培品種のいずれにもこの樹形が適用できるか不明であることが、普及の妨げとなっている。
- ・品種の生長・着花特性に応じて管理方法を変えることで、より効率的な果実生産が可能になる。



リンゴの省力樹形 ジョイントV字樹形

3. 研究内容

- ①それぞれの樹種で、省力樹形を用いて品種を変えた栽培試験を行い、省力樹形向きの品種特性を明らかにする
- ②省力樹形を用いてさらに生産性を向上させるため、植物生育調節剤等を用いた省力的な着果管理方法を検討する



回転させた紐状素材で摘花している様子

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・各樹種で省力樹形向きの品種特性が明らかになる
- ・各樹種で、安定生産に寄与する新たな省力的な着果管理方法が開発される



期待される効果

- ・国産果実が安定供給されるとともに、輸出に仕向けられる量が増加する
- ・労働生産性の高い品種が開発される

研究代表機関：農研機構果樹茶業研究部門

共同研究機関：宮城県、神奈川県、静岡県、長野県、新潟県、福岡県